

日本語〈日本語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語表現法	PC		11401	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
大岸 啓子	必修	2	公立小学校教員			

授業の到達目標

日本語の特質を理解するとともに、言葉の使い方・話し方・文章の書き方等、社会生活の中で必要とされる基礎的な国語力を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

基本的な日本語の知識や文章の書き方を修得するために、実践的な演習を取り入れた講義を行う。また、実用的な挨拶・自己紹介等における話し言葉の表現法についても学ぶ。言葉に対する感性を磨くために、詩や名文等の学修を取り入れていく。

授業計画

1. 受講の心構え・授業内容についてのガイダンス、美しい日本語
2. 国語の力(読む・調べる・書く)
3. 話し方の基本
4. 挨拶と敬語
5. 敬語の使い方、自己紹介の仕方
6. 自己紹介
7. 文字の書き方と表記
8. 文章の書き方①
9. 文章の書き方②
10. 文章の書き方③
11. 文章の書き方④
12. 文章の書き方⑤
13. 書写①
14. 書写②
15. 日本語表現の振り返り

授業の方法

書く活動や発表を多く取り入れる。

準備学修

テキストの指定ページを予習し、学修内容を把握しておくこと。詳細については、Webで参照すること。

課題・評価方法

- ①小テストは、講義の中でフィードバックを行う。
- ②評価方法は平常点30%、定期試験70%とする。

欠席について

欠席は3点減点し、遅刻は1点減点する。

テキスト

田上貞一郎『保育者になるための国語表現』萌文書林

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度（準備と提出物含む）を重視する。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

日本語〈日本語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語文章構成法			11405	II	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

他人の意見を理解し、それを要約する力をつける。また、客観的資料をもとに、自分の意見を述べる力をつける。このクラスではKAISEIパーソナリティのE（倫理）とI（知性）とを養う。

授業の概要

簡潔で的確な日本語表現の習得を目指す。表現力向上のために必要な基礎的知識を、演習のなかで体得していく。与えられた課題に対して、自分で文章を作り、それを推敲していく演習形式の授業である。読み手を意識した文章を書く練習をするため、書き上げた文章は発表する。

授業計画

1. 〈評論文〉(1) 感想文と評論文とはどう違うのか。
2. 〈評論文〉(2) アウトラインのたてかたを学ぶ。
3. 〈評論文〉(3) 推敲の仕方を学ぶ。
4. 〈評論文〉(4) 書評を書く。図書・雑誌の探し方を学ぶ。
5. 〈評論文〉(5) 引用の規則を学ぶ。
6. 〈新聞投稿〉 検索能力を養う。
7. 〈意見文〉 他説・自説・証明といった三段構成の方法を学ぶ。
8. 〈意見文・説得文〉 反論の仕方を学ぶ。予想される反論をあげ、それに反論する。
9. 〈意見文・説得文〉 結論・本論・結論の三段構成の方法を学ぶ。
10. 〈小説〉 語り手の位置を学ぶ。
11. 〈小説〉 テーマにそった短編小説を書く。
12. 〈エントリーシート〉 キャッチコピーを学ぶ。接近法・強調法・暗示法などを学ぶ。
13. 〈エントリーシート〉 ネーミングコピーの作り方を学ぶ。
14. 〈エントリーシート〉 標語の作り方を学ぶ。ブレンライティング法を学ぶ。
15. 〈随筆〉を書く

授業の方法

演習が中心の授業となる。コンピューター教室で、情報を検索しながら文章を作り、それを推敲していく。新聞投稿などとおして、書き上げた文章は発表していく。社会の一員としての自分の位置を理解していく。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法

毎回課題を与え、その提出を求める。提出物は教員が評価し、次週にフィードバックする。平常点70%、定期試験に変わるレポート30%

欠席について

課題の提出は、授業当日が原則となるため、欠席するとその点数がすべて減点される。

テキスト

必要に応じて授業中に随時紹介する。

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

留意事項

演習が中心の授業となる。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	e		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
大岸 啓子	必修	2				

授業の到達目標

演習Ⅰ・Ⅱで取り組んだ内容からテーマを決定し、卒業研究を作成する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）の育成を目指す。

授業の概要

研究テーマに沿って提出までの計画を立て、必要な文献や資料の収集に自主的に取り組み、卒業研究を進めていく。

授業計画

1. 演習の進め方
2. 卒業研究のテーマ
3. 研究発表と討議①
4. 研究発表と討議②
5. 研究発表と討議③
6. 研究発表と討議④
7. 研究発表と討議⑤
8. 研究発表と討議⑥
9. 研究発表と討議⑦
10. 研究発表と討議⑧
11. 研究の進め方①
12. 研究の進め方②
13. 研究の進め方③
14. 研究の進め方④
15. まとめと今後の取組

授業の方法

自分と他者の考えを比較・検討し、討議することを重視する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

- ①レポートは、担当教員による批評とアドバイスをを行う。
- ②評価方法は平常点50%、定期試験50%とする。

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

研究テーマを念頭に置いて、文献・資料を自主的に収集すること。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	f		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	必修	2	公立幼稚園教員			

授業の到達目標

演習Ⅰ・Ⅱの成果を踏まえてテーマを確定し、研究計画を立案して卒業研究を進めていく。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を育成する。

授業の概要

研究計画をもとに、文献や資料等の収集と読書に努め、研究テーマに沿って、主体的に研究を進めていく。また互いの研究文をもとに協議し、考察を深められるようにする。

授業計画

1. 研究テーマと研究方法の確認(1)
2. 研究テーマと研究方法の確認(2)
3. 研究計画の立案(1)
4. 研究計画の立案(2)
5. 各自の研究内容について発表とディスカッション(1)
6. 各自の研究内容について発表とディスカッション(2)
7. 各自の研究内容について発表とディスカッション(3)
8. 各自の研究内容について発表とディスカッション(4)
9. 各自の研究内容について発表とディスカッション(5)
10. 研究の進捗状況について報告(1)
11. 研究の進捗状況について報告(2)
12. 研究の進捗状況について報告(3)
13. 研究の進捗状況について報告(4)
14. まとめと今後の展望(1)
15. まとめと今後の展望(2)

授業の方法

研究内容や取組み状況の報告・発表を通して、討議しあうことを中心とする。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法

- ①提出を求めるワークシートや感想レポート等について、授業内で

- ① 評価・助言を行う。
- ② 平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき5点減点とし、遅刻は2点減点とする。

テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

参考図書

「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

留意事項

研究テーマに関する文献や資料を主体的に収集すること。発表当日は必ず資料を持参すること。

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	e		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
大岸 啓子	必修	2				

授業の到達目標

各自の研究テーマに沿って文章を作成・推敲し、卒業研究を完成する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）の育成を目指す。

授業の概要

卒業研究を進めるために、全体指導や個別指導を行う。研究経過の発表や討議を重ねながら、卒業研究を完成していく。

授業計画

1. 今後の卒業研究の進め方
2. 卒業研究の発表と討議①
3. 卒業研究の発表と討議②
4. 卒業研究の発表と討議③
5. 卒業研究の発表と討議④
6. 卒業研究の発表と討議⑤
7. 卒業研究の発表と討議⑥
8. 卒業研究の発表と討議⑦
9. 卒業研究の発表と討議⑧
10. 卒業研究の発表と討議⑨
11. 卒業研究の推敲①
12. 卒業研究の推敲②
13. 卒業研究の内容報告と討議①
14. 卒業研究の内容報告と討議②
15. まとめ

授業の方法

自分と他者の考えを比較・検討し、討議することを重視する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

- ① 各回提出のレポートは、担当教員による批評とアドバイスを行う。
- ② 評価方法は平常点50%、定期試験50%とする。

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

参考図書

研究テーマに沿った文献を適宜紹介する。

留意事項

自主的に卒業研究に取り組むこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	f		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	必修	2	公立幼稚園教員			

授業の到達目標

テーマを深く掘り下げて研究を進め、その成果を卒業研究としてまとめる。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

研究テーマに沿って文献や資料の分析を行い、それをもとに報告と考察を繰り返しながら、研究を進め、完成していく。

授業計画

1. 研究の進捗状況の確認(1)
2. 研究の進捗状況の確認(2)
3. 研究の進捗状況の確認(3)
4. 研究の報告と討議(1)
5. 研究の報告と討議(2)
6. 研究の報告と討議(3)
7. 研究の報告と討議(4)
8. 研究の報告と討議(5)
9. 研究の報告と討議(6)
10. 研究の報告と討議(7)
11. 研究の修正とまとめ(1)
12. 研究の修正とまとめ(2)
13. 研究の修正とまとめ(3)
14. 最終報告とまとめ
15. 最終報告とまとめ

授業の方法

各自の報告や全体討議とともに、個別指導を取り入れて授業を進める。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法

- ① 提出を求めるワークシートや感想レポート等について、授業内で評価・助言を行う。

② 平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回の欠席につき5点減点とし、遅刻は2点の減点とする。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」「保育所保育指針解説」フレーバル館

留意事項

自ら責任をもって計画的に取り組むこと。

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等国語科指導法			17661	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
大岸 啓子	選択	2	公立小学校教員			

授業の到達目標

小学校「国語科」の教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

国語科の目標と内容、授業方法、授業の構造、指導計画等、小学校における国語科学習指導法を把握するための講義を行う。また、教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業の指導力を身に付ける。

授業計画

1. 受講の心構え・授業規律・授業内容についてのガイダンス、国語と国語科
2. 国語科教育の意義と役割
3. 国語科の目標と内容
4. 学習指導要領に基づいた学習指導計画
5. 国語科の指導法と評価
6. 話すこと・聞くことの指導
7. 書くことの指導
8. 説明的な文章の指導（情報機器及び教材の活用を含む）
9. 文学的な文章の指導（情報機器及び教材の活用を含む）
10. 音読・朗読の指導
11. 伝統的な言語文化の指導（情報機器及び教材の活用を含む）
12. 国語の特質に関する指導
13. 模擬授業（低学年）
14. 模擬授業（高学年）
15. これからの国語科教育の課題

授業の方法

発表やディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

テキストの指定ページを読んだり、指導案を作成したりしておくこと。詳細については、Webで参照すること。

課題・評価方法

- ①指導案と模擬授業について、批評とアドバイスを行う。
- ②評価方法は平常点30%、定期試験70%とする。

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

吉田武男 監修『初等国語科教育』ミネルヴァ書房
文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度（模擬授業の準備やレポート等を含む）を重視する。小学校国語科の指導法を身に付けようとする意欲をもって授業に臨むこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等社会科指導法			17665	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
山本 博	選択	2	1973年～2011年神戸市立小学校に38年間勤務			

授業の到達目標

小学校における社会科教育に必要な実践的指導力を身に付ける。
（1）小学校学習指導要領（社会）の目指す理念や目標を理解することができる。（2）小学校学習指導要領（社会）の変遷と今求められている社会科の学力について理解することができる。（3）具体的な資料を用いた学習指導案を作成し、模擬授業を展開することができる。（4）社会の出来事について関心を持つことができる。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自立）とI（知性）を養う。

授業の概要

小学校学習指導要領（社会）の変遷を概観し、現行の小学校学習指導要領（社会）に基づき、教育内容と指導法を考察する。教科の特性に応じた情報機器の有効な活用方法や教材研究の方法や学習指導法、評価方法の修得を目指す。グループワークとして、事例研究や模擬授業、教材研究の発表の場を設定する。さらに、学習者の視点に立った実践的な学びを展開することで、教師としての授業力、実践力を高める。

授業計画

1. 社会科とは何か、小学校社会科の成立と変遷
2. 小学校学習指導要領社会の構成
3. 小学校学習指導要領社会の内容
4. 社会科教育の今日的課題
5. 社会科の教材研究と授業の構想：資料の活用と教材化
6. 社会科の教材研究と授業の構想：授業の仕組みと展開
7. 社会科の教材研究と授業の構想：学習指導案の書き方と授業の見方、評価
8. 地域学習の教材研究と授業の構想：教材研究と学習指導案の作成（情報機器及び教材の活用を含む）（3、4年 身近な地域や市の様子、県の様子、生産や販売の仕事、安全を守る働き）
9. 地域学習の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価（身近な地域や市の様子、地域に見られる生産や販売の仕事、地域の安全を守る働き）
10. 地域学習の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価（市の様子の移り変わり、県の様子、県内の特色ある地域の様子）
11. 地域学習の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価（人々の健康

や生活環境を支える事業、自然災害から人々を守る活動、県内の伝統や文化、先人の働き）

12. 地理的、現代社会の仕組みや働き、歴史的学習の教材研究と授業の構想：教材研究と学習指導案の作成（5、6年 国土の様子と国民生活、政治の働き、歴史的な事象、自然環境と国民生活との関連、世界と日本の役割）
13. 地理的環境と人々の生活、現代社会の仕組みや人々の生活、歴史と人々の生活学習の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価（国土の様子と国民生活、国土の自然環境と国民生活との関連、農業や水産業における食料生産）
14. 地理的環境と人々の生活、現代社会の仕組みや人々の生活、歴史と人々の生活学習の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価（工業生産、情報と産業との関わり、国土の自然環境と国民生活との関連）
15. 地理的環境と人々の生活、現代社会の仕組みや人々の生活、歴史と人々の生活学習の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価（政治の働き、グローバル化する世界と日本の役割、歴史上の主な事象）

授業の方法

講義にディスカッションと発表を多く取り入れる。

準備学修

「Webで参照すること。」

課題・評価方法

レポート提出（全3回）を求め、講義の中でフィードバックを行う。

『平常点50%、定期試験50%』

欠席について

大学の規定通り

テキスト

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編（文部科学省）

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育・教職実践演習（幼・小）			17686	IV	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
大岸 啓子／佐原 信江	選択	2	公立小学校教員、公立幼稚園教員			

授業の到達目標

保育・教職課程科目の学修や学校園での現場学習等を通じて、保育士・教員として必要な資質能力が、実践力としてどのように統合されたかを最終的に確認する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

実習で学んだことを振り返り、課題を確認するとともに保育者・教育者としての役割と責務についての認識を深めていく。職務への使命感、社会性や対人関係能力、また、学級経営能力や指導力を高め、保育者・教育者としての資質の向上を目指す授業を進める。

授業計画

1. 授業概要の説明、受講の心構え、これまでの学修の振り返り
2. 保育・教職の意義や保育士・教員の役割、職務内容、子どもに対する責任等についての討議
3. 社会性や対人関係能力（職場、保護者・地域との人間関係の構築等）についての講義・グループ討議
4. 幼児・児童理解や学級経営についての講義・グループ討議
5. 保育計画案・学級経営案の作成
6. 保育計画案・学級経営案の発表とグループ討議
7. 学校園現場の見学・調査①
8. 学校園現場の見学・調査②
9. 社会性、対人関係能力、幼児・児童理解、学級経営についてのグループ討議
10. 保育・教科の指導力についての講義・グループ討議
11. 模擬保育・模擬授業と討議①
12. 模擬保育・模擬授業と討議②
13. 事例研究とロールプレイング①
14. 事例研究とロールプレイング②
15. 目指す教師像と自己課題の確認

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

事前に課題を提示するので、レポートや作品等を作成すること。具体的な課題については、保育・教職（幼・小）の各担当教員から提示する。

課題・評価方法

- ①レポートや作品等の提出物については、担当教員による批評とアドバイスをを行う。
- ②評価方法は平常点70%、定期試験30%とする。

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

各担当教員が参考図書の中から指定する。

参考図書

厚生労働省『保育所保育指針解説』、文部科学省『幼稚園教育要領解説』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』フレーベル館、文部科学省『小学校学習指導要領』、わかば社『教職実践演習 これまでの学びと教師への歩み』

留意事項

自己目標・課題をもって意欲的に授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習指導（幼稚園）I	教職幼		17691	II	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	選択	1	公立幼稚園教員			

授業の到達目標

教育実習とは何か、幼稚園に勤務する教諭の仕事とは何かなど、教育実習に向けて準備すべき実際や心構えを学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とK(思いやり)の育成をめざす。

授業の概要

1週間の観察・参加実習にあたり、教育実習の目的・意義、特に実習記録のとり方について具体的に学んでいく。加えて、人権感覚を養うなど教師としての資質向上をめざす内容を取り入れている。

授業計画

1. 幼稚園教諭とは
2. 教育実習の意義と目的
3. 教育実習園の選択と決定
4. 教育実習園の教育などの理解
5. 教員に求められる資質
6. 週間実習に向け、園への依頼の仕方
7. 実習記録の取り方と記載について
8. 実習記録の記載に際しての留意事項
9. 実習に際しての具体的な留意事項
10. 実習後について(礼状の作成など)
11. 1週間実習を終えての成果や課題について協議①
12. 1週間実習を終えての成果や課題について協議・発表②
13. 実習記録について個人指導及び指導
3週間実習に向けて課題の整理
14. 実習記録について個人指導及び指導
3週間実習に向けて課題の整理
15. 実習記録について個人指導及び指導
3週間実習に向けての準備

授業の方法

テキストやプリントをもとに、具体的な内容で授業を進める。実習後は、幼稚園から返却された実習記録や評価をもとに、自らの成果と課題を明確にする。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法

- ①提出を求めるワークシート等について、授業内で評価と助言を行う。
- ②平常点70%、定期試験30%

欠席について

基本的に欠席は認められない。やむをえず欠席する時は必ず事前に申し出ること。その場合のみ1回につき3点の減点とする。

テキスト

本学作成の「幼稚園教育実習の手引き」「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館「あそびうた大全集200」永岡書店「実践！造形あそび」ナツメ社

参考図書

「保育とカリキュラム」ひかりのくに社
幼稚園教育指導資料第5集「指導と評価に生かす記録」チャイルド社

留意事項

免許取得のための教育実習に向けた授業であることを十分心得ること。

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等体育科指導法			17745	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
木岡 正雄	選択	2	公立小学校教員			

授業の到達目標

体育科の学習指導案を作成することができて、模擬授業を行う力を養う。また、授業観察力を培う。グループワークを主として行い、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）、S（奉仕）の育成を目指す。

授業の概要

小学校体育科の目標、指導計画、学習指導法、教材内容の扱い方等を把握する。理解した知識を基に学習指導計画を立て、模擬授業を実施する。また、授業を観察するポイントを理解する。

授業計画

1. オリエンテーション。体育科の目指す授業について
2. 小学校学習指導要領、体育編の内容を知る。
3. これから目指す体育授業について。運動の特性について
4. 低学年の目標と学習内容について
5. 中学年の目標と学習内容について
6. 高学年の目標と学習内容について
7. 学習指導案の書き方について
8. 指導案を作成する。①
9. 指導案を作成する。②
10. 指導案を作成する。③
11. 模擬授業を実施する。①
12. 模擬授業を実施する。②
13. 模擬授業を実施する。③
14. 模擬授業を振り返る。学習評価について。
15. 学習のまとめ。これからの体育学習について

授業の方法

小グループでの話し合い、調べ学習、作業等を主とする。体育の実技も実施予定である。

準備学修

文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）
 文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編等
 を読み、学習指導計画案等を事前に調べ、予習・復習等60時間を

費やすこと。

課題・評価方法

- ①学習指導計画案と模擬授業について、評価とアドバイスを行う。
- ②評価方法は平常点30点、学習指導計画案40点、模擬授業30点とする。

欠席について

原則欠席をしないこと。登校できる程度なら見学でも出席すること。

テキスト

文部科学省 「小学校学習指導要領（平成29年告示）」と「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編」

参考図書

新しい体育授業の運動学 三木四郎 著 明和出版
 平成23年版神戸市小学校体育指導の手引き

留意事項

実技も実施するので、運動のできる服装の用意をする。

教員連絡先

〒651-2277 神戸市西区美賀多4-7-20
 自宅電話番号&Fax 078-961-4362

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
道徳教育指導論	教職小		17749	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
大岸 啓子	選択	2	公立小学校教員			

授業の到達目標

小学校「特別の教科 道徳」の目標と内容、指導計画、学習指導法等について、基礎的な理論と指導技術を修得する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

道徳教育の目標と内容、授業方法、指導計画、資料の扱い方等、小学校における道徳の指導法を把握するための講義と演習を行う。また、学習指導案作成や模擬授業を通して、実践的な指導力を身に付ける。

授業計画

1. 受講の心構え・授業内容についてのガイダンス、道徳教育の基礎理論
2. 道徳教育の歴史
3. 道徳性とは何か
4. 道徳の目標と内容
5. 道徳性の発達理論と道徳教育
6. 道徳教育の計画
7. 道徳科の学習指導
8. 道徳教材の活用
9. 道徳科における問題解決的な学習
10. 道徳科における体験的な学習
11. 道徳科の授業展開
12. 道徳の評価
13. 模擬授業(低学年)
14. 模擬授業(高学年)
15. これからの道徳教育の課題

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

- ①指導案と模擬授業について、批評とアドバイスを行う。
- ②授業への参加度30%、定期試験70%とする。

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

柳沼良太『道徳の理論と指導法』図書文化社
 文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』廣済堂あかつき

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度（模擬授業の準備や提出物を含む）を重視する。道徳の指導法を身に付けようとする意欲をもって授業に臨むこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
 各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習指導（小学校）	教職小	17785	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
大岸 啓子	選択	1	公立小学校教員		

授業の到達目標

小学校で教育実習を行う責任と心構えを認識するとともに、実習に必要な知識・技術を身に付ける。また、教育実習の成果と課題を振り返り、さらに身に付けるべき知識や技能等について理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

教育実習に必要な基礎的・基本的な知識、教育現場の現状や実習中の心構え等について講義を進める。また、具体例や実践を通して、小学校教師の様々な仕事と職責について学ぶ。

授業計画

1. 受講の心構え・授業内容についてのガイダンス、小学校教育実習を受ける前に
2. 実習校との事前打合せ、小学校の組織と日程
3. 実習中の心得（勤務、礼儀、言葉遣い、服装、持ち物）
4. 実習中の心得（学級経営、給食指導、休み時間）
5. 児童や教職員との接し方
6. 実習記録の書き方
7. 学習指導と生徒指導
8. 算数科模擬授業（低学年）
9. 算数科模擬授業（高学年）
10. 教育実習の成果と課題

授業の方法

書く活動と発表を多く取り入れる。

準備学修

テキストの指定ページを予習したり、指導案を作成したりしておくこと。詳細については、Webで参照すること。

課題・評価方法

- ①指導案と模擬授業について、評価とアドバイスをを行う。
- ②評価方法は平常点70%、定期試験30%とする。

欠席について

欠席は10点減点し、遅刻は3点減点する。

テキスト

石橋裕子・梅澤実・林幸範『小学校教育実習ガイド』萌文書林

参考図書

文部科学省『小学校学習指導要領解説』東洋館出版社

留意事項

小学校教育実習の知識や技術を修得し、教師としての心構えを学ぶ授業であることを認識して授業に臨むこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。